

市民憲章運動推進第38回全国大会

写真紹介

咲かそう憲章の心 ひろげよう結いの輪
～ 光と風 ふれあいのまちづくり ～



咲かそう憲章の心 ひろげよう結いの輪

光と風 ゆめみらい ふれあいのまちづくり

市民憲章運動推進 第38回全国大会

沖縄県石垣市



市民憲章運動推進第38回全国大会

咲かそう憲章の心 ひろげよう結いの輪
～ 光と風 ふれあいのまちづくり ～



「咲かそう憲章の心 ひろげよう結いの輪」を大会テーマにした市民憲章運動推進第三十八回全国大会が、昨年の十月三十一日から十一月二日までの三日間わたり、日本最西南端の都市、沖縄県石垣市の石垣市民会館で、北は北海道釧路市から、南は地元石垣市までの市民憲章運動関係者や地元市民、総勢千人の参加を得て開催された。

参加者全員による唱和文の朗読で始まった開会式で、宮里英伸会長が市民憲章の実現に向けて市民の実践活動の必要を訴え、開催地の市長、長照石垣市長は、この大会を契機として、石垣市でも、「憲章の心」の一層の普及、実践を進め、特色のあるまちづくりを進めたいとした。

引き続き事例発表や記念講演が行なわれ、事例発表では、地元石垣市の三つの活動が報告された。一つは、宮良小学校の活動報告。親子でいかにを組む、權をつくり、近くを流れる宮良川の上流から河口まで三キロをくだりながら、植物や野鳥の観察、川周辺の環境の見学、古老に戦争体験の話などを聞く活動を二十四年も続けているというもの。また、同小学校では、島の基幹作物であるサトウキビを育て、昔ながらの製法で黒糖づくりも行なっている。

「花いっぱい 蝶の飛び交う学校」と題した、石垣市立八島小学校の事例発表では、オオゴマダラを飼育する活動が報告された。このオオゴマダラは、体長十五センチにもなる日本最大といわ



れる蝶。サナギの時に美しい黄金色になることでも知られている。この蝶は「石垣市の蝶」にも選定され、かつては街中を飛び交っていた。しかし、近年、生息地の海岸がコンクリート護岸などにより激減していた。これは、この蝶の食草となる岩場に自生していたホウライカガミ消滅によるもの。そこで、同校では、校庭のフェンス沿いや鉢植え、さらに「ちょうちょランド」と名づけられた温室に、このホウライカガミの植え、オオゴマダラの育成とその観察活動が続けているもの。

このオオゴマダラの保護活動は、八島小学校だけでなく、全島に広がっている活動でもある。平成十年十月に、会員数五百人を擁する「オオゴマダラを育てる石垣市民の会」が発足し、会員が自宅でホウライカガミを生育させ、オオゴマダラを呼びも戻そうという活動をしている。さらに八島小学校のように学校、幼稚園、保育園にもホウライカガミの植生を広げている。会員へのアンケート調査では、活動から三年を経過した時点で、すでにオオゴマダラの舞う里は実現したという。

「八重山の民俗芸能」と題した記念公演では石垣市や竹富島に伝わる踊りや民謡が披露された。

最後に、まちづくりの担い手として「みどり」と花いっぱい住みよくなること「づくり活動に励むことを誓った「大会宣言」を採択して終了した。

なお、次年度の全国大会は、福岡県大牟田市で開催される。